

春季防災訓練



非常対策本部で情報収集

東長原事業所では火災・爆発・有害物質漏洩等の緊急事態が発生した場合に備え、事業所内で働く各企業と合同で総合防災訓練を年2回（春・秋）実施しており、毎年春の総合防災訓練では、毒性のあるガスが漏洩した想定で訓練を行っています。

今回は、コロナ禍前の規模で、事業所内に立地する場内企業4社、常駐協力企業6社に加えて、会津若松消防署十文字出張所にも協力して頂き4月18日に訓練を行いました。

防災職場や非常時組織の各班が円滑に初動対応できるのか、また被災者が発生したことを想定して、被災者を無事に救助することができるのかを重点課題として掲げ取り組みました。

今年から情報共有の手段としてTeamsを活用し、防災職場の状況をリアルタイムで共有することや、非常時組織の各班からの報告を板書に写すことなく直接電子ファイルに入力して共有するなど、少しずつDXを活用した取り組みを取り入れました。その成果として、非常時組織の各班が使用するIP無線機の応答が少なくなり、情報の錯綜が減少できました。一方で、要救助者を救急搬送するまでのタイムラグが長いこと、初動が遅れたことなど、本来の防災という観点での課題がより浮き彫りになりました。今後、これらの課題を改善して、万が一発生した有事の際にも慌てることなく、円滑に対応できるようにレベルアップを図っていきます。また、訓練終了後には会津若松消防署十文字出張所の猪俣所長より「IT技術をうまく活用している」「情報共有がスムーズ」などのお褒めの言葉と、「今後も訓練を継続して関係機関と一体となって災害に備えてください」と激励のお言葉をいただきました。

渡辺事業所長からは、「訓練は比較的スムーズに進んだが改善点はいくつか見受けられた。課題を整理し、今後も非常事態に機敏に備えられるような体制づくりをお願いしたい」と訓示がありました。

これからも継続して訓練を実施する事で課題を改善し、レベルアップを図り、ご来場いただく全ての人に安心していただける事業所を目指して安全活動を続けていきます。



要救助者救出



被災者の救急搬送



訓練終了後の訓話

新入社員が入社しました



新入社員



入社式の様子

東長原事業所では、今年度4名の新入社員を迎えました。

4月1日には事業所採用新入社員3名の入社式を行い、4月15日には本社での集合研修を終えた本社採用新入社員1名の着任式を行いました。

先輩従業員が拍手で迎える中、記念館に入場し、新入社員として紹介されると、「会社に貢献できるようになりたい」「早く仕事を覚えたい」とそれぞれに意気込みを語ってくれました。渡辺事業所長からは、危険物を扱う東長原事業所において「朝出勤した時と同じ状態で帰路につく」事の大事さについてお話がありました。また、配属先となるFC課、IC課、開発グループの所属長からは「挨拶を大事に」「これから一緒に頑張りましょう」と激励の言葉が掛けられました。

事業所での共通机上研修や現場研修を終え、現在は配属先の業務に入りそれぞれ日々頑張っています。これから沢山の事を学んで、一日も早く東長原事業所を支える一員となってくれる事を期待しています。

六社親善庭球大会

5月26日、会津若松市の「あいづドーム」において「六社親善庭球大会」が開催されました。本大会は、昭和20年代に会津地方に立地する6企業の親睦を深める目的で始められた大会で、今回で85回目を迎えました。

今回は1社が参加できなかったため5社総当たりリーグ戦で行われました。

全てダブルスで、1試合4組（軟式2組、硬式2組）で熱戦が繰り広げられました。「親善」が目的ではありませんが、東長原事業所は前回準優勝だったため、今回こそ優勝杯を持ち帰るべく、レゾナック山崎事業所からも応援として2名の方にご参加いただき、合計11名で試合に臨みました。

第1、第2試合ともに2対2で引き分け、第3試合は前回大会で優勝した東北電力株式会社様と白熱した試合となり、3対1で惜しくも負けてしまいましたが、4試合目は3対1で勝利しました。選手全員がそれぞれに勝っても負けても力を出し切り、事務局スタッフとして参加した2名も含めたチーム全員で結束して見事第3位を掴み取りました。その後の懇親会では参加者同士の交流を更に深めることが出来ました。今後も継続的な開催に貢献し近隣六社との交流を続けていきます。



皆様お疲れ様でした！



試合の様子

